

町の身近なイベントなどを紹介!!

写真でみる まちの話題

町公式SNS
「北海道池田町」
で、まちの
出来事を発信!!



池田高2・3年生が皿作りに挑戦 (6月18・19日)



池田高校の2・3年生が「工芸基礎」「フードデザイン」の合同授業で、粘土を使った皿作りに挑戦しました。

この授業は美術品を作るだけでなく、実際に自分たちで制作した作品を生活の一部として感じてもらうと、初めて実施。いきがいセンターから「いきがい焼」用の粘土が提供され、陶芸の講師に教わりながら、思い思いに自分らしい形に仕上げました。

完成した皿は、9月に実施する「フードデザイン」の授業で、生徒が考案した料理の盛り付けに活用する予定です。

「授業が面白いって遊んでるの?」「客観的に見て進路はどうなの?」という声を頂きます。卒業後の進路先は実績ともいえますが、生徒一人一人の人生を数字だけで測れるものではありません。池田高校で何を学んだのか、どんな出会いをしたのか、総合学科を卒業した若き先輩たちの様子を紹介します！特に2020年代卒の3人はコロナ禍という、世の中が混乱した時代を過ごした卒業生たちです。

「昔は良かった」ではなく、「今」の池田高校の生徒や卒業生を見ていただきたい、そんな思いで取材をしました。

“ダンプレ”にほれて入学

私が池高を選んだ理由は、吹奏楽部の「ダンス＆プレー（ダンプレ）」に出会ったからです。初めて演奏を見た時、全身が震えるほどの衝撃を受けました。楽器は未経験だったものの、入部後は朝一番に部室へ向かい、自分の楽器と向き合いながら部活に全力投球しました。部長としての演奏技術や後輩の指導に悩んだ時、顧問の古城先生から私には「責任感と献身性」があるから自信を持っていい、と背中を押してもらいました。さまざまな困難を乗り越えられたのは、友人たちや信頼している先生の声が励ましになったからだと思います。



おかざき かのん
岡崎 花音さん
(2023卒)

本別町出身。本別中→池田高→帯広高等技術専門学院（建築技術科）在学。

最短で一級建築士になる。 手帳に努力を刻んだ3年間

現在、帯広高等技術専門学院の建築技術科で学んでいます。一級建築士になりたいという幼い頃からの夢をかなえるため、最短で国家資格取得を目指せる進路を選びました。この目標を実現するために、1年次から計画的な勉強を続け、週ごとの目標を立てて振り返る習慣を3年間継続してきました。また、1年次の担任だった米家先生から「あなたはすごい人になる」との言葉を頂き、書籍『7つの習慣』を薦められたことは大きな転機でした。この本の中で心に響いた言葉も手帳に書き留めていました。今でも読み返すと過去の自分自身に励まされ、頑張れます。

池田高校では「やりたい!」という気持ちを応援してもらえる環境がありました。高校3年間で培った努力の継続や困難を乗り越える力が、今の私にしっかり生かされています。



▲池田高校での進路講話時に、当時使っていた手帳を生徒に回覧させていただきました。どこに出しても恥ずかしくない3年間の努力量。岡崎さんの努力を継続した姿が見える手帳です。



▲『ファッション造形』の授業で作ったシカ革の財布。SDGsがテーマの中、端切れを使い、自ら型紙をおこして作成。現在でも愛用しています。



▲池高吹奏楽部でホルンを担当。第53代部長を勤めました。池田高校公式YouTubeチャンネルでたくさんの活躍を見ることができます！

文責・レイアウト
地域おこし協力隊
高校魅力化推進員
野武亜美



池田高校HP

自宅からの通いやすさと補助の多さ



▲卒業式前日の1枚。コロナ禍の影響もあり、思い出の写真もマスク越しが多かったといいます。

私が池田高校に決めた一番の理由は、自宅から通いやすかったことです。また、金銭的な補助が出ることや給食があるため、両親にできるだけ負担をかけずに進学できると思い、池高に決めました。

在学中に注力したのは、3年次の課題研究の授業です。高齢化率の上昇や老々介護の問題に焦点を当て、池田町社会福祉協議会の方々にご協力いただき、

ROCOOCO2号店で介護予防の運動を企画しました。コロナ禍でありながらも町内の皆さんと世代を超えた交流ができ、元気な姿とマスク越しの笑顔がとても思い出に残っています。

帯広高看 →北斗病院(SCU所属)

進路に迷っていた際に、高校の先生から「看護師に向いていると思う」と言われたことがきっかけで興味を持ちました。帯看を受験したのは、学費や管内で活躍する看護師を養成していることに魅力を感じたからです。しばらく池高から帯看への進学者がいなかったため、受験対策の情報が少なく、とても不安でした。ですが、先生方がとても親身に受験勉強や面接練習を支援して下さい、自信を持って受験に向かうことができました。そして、池高から帯看へ後輩が続いて入学していることを、とてもうれしく思っています。



▲帯広高看時代に学内実習をしている清水さん。

帯看では、1・2年生では学院の教員だけでなく、病院で働く医師や看護師が講師として来て下さり、看護師になるために必要な知識や技術を学びます。3年生では、管内の病院や福祉施設などで実習をします。現場で働く看護師からご指導いただきながら、病気や障害がありながら生活されている患者さまやご家族との関わりから必要な看護を考え、提供していきます。クラスメート全員が看護師という目標に向かって、助け合いながら学習や実習、国家試験に向かう日々はとても充実しており、成長することができた学生生活となりました。



しみず みほ
清水 美帆さん
(2021卒)

池田中→池田高→帯広看護専門学校→北斗病院(SCU(脳卒中ケアユニット))所属
「患者さまとご家族に信頼していただける看護師を目指して努力しています」

池田高校のよいところは

やってみたい！がかなう環境

池田高校は、少人数制のため先生との距離が近く、不安なことや進路相談にも手厚くサポートしていただきました。総合学科ならではの自由度の高い授業では、「やってみたい」「頑張りたい」がかないます。私もこの学校で自分の成長を実感しました。池田高校でなりたい自分を追いかけてみませんか？

北森カレッジ→ログオーバー株式会社

朝4時から十勝の現場で活躍中!



▲大木をチェーンソーで切る山口さん。

保育士希望から林業の道へ



▲山口さん専用の重機(新車)。入社1年目の2カ月目からの愛車です。



やまぐち きらる
山口 結晶さん(2021卒)

豊頃町出身。豊頃中→池田高→北海道立北の森づくり専門学院(北森カレッジ)→ログオーバー(株)(広尾町)。

山口さんの活躍は会社のSNSなどでもたくさん発信されています。ログオーバーのHP、フェイスブック、Instagramもぜひ!



▲木のイベントで子どものまき割り体験をサポートする山口さん。現場での仕事の他にも、会社のユニホーム(ロングTシャツ)のデザインを行っている。「飽きっぽい私にとって、とても楽しく働ける職場」と笑顔で話してくれました。

高校生の時、最初は「保育士志望」でした。しかし、森で活躍していた地域おこし協力隊の福家さんの姿を見て林業に興味を持つようになりました。また『保育基礎』の授業を担当していた山本先生から、「保育士もいいけれど、チェーンソーを持ったらカッコいいんじゃないかな?」と言われたことが心に残り、高校時代の出会いをきっかけに林業の道を目指すことを決意しました。

一方で、林業に携わっていた祖父や母からは「女性の仕事ではない」「死と隣り合わせの仕事だ」と反対されました。それでも覚悟を決め、北海道立北の森づくり専門学院に進学し、現在の会社で働いています。

夏場は朝4時から現場に出て、けがをすることも多いですが、外で働くことはとても開放的で充実感があります! また、林業の仕事を通じて子どもたちと関わる機会もあり、木育を通じて子どもたちやお母さんたちを笑顔にしたいという思いを抱いています。「木育マイスター※」の資格も取得したので、さまざまなイベントで木の良さや林業への関心を広げる活動を続けていきたいです。

※木育マイスターとは

北海道が認定する、木育を普及させる専門家。山口さんは、第15期(R6)認定を受けています。

池高卒の池高教員！

大東文化大→現)体育教諭・スケート部顧問

「個性を伸ばす手厚い指導」を次世代へ



やまざわ りょう
山澤 諒さん
(2012卒)

標茶町出身。磯分内中→池田高
→大東文化大学スポーツ科学科
→(教師)釧路明輝高校→池田高校
5年目。2年次担任。

標茶町磯分内出身の私は、中学時代、一人でスケートをしていました。結果が出ず苦しい時期でしたが、池田高校のマンツーマンで熱心な指導を知り、環境を変えようと決めました。十勝には室内リンクの明治北海道十勝オーバルが当時完成したばかりで、そこで滑りたいという思いもありました。

高校では、先輩の存在が安心感になりました。世界ジュニア大会に出場した先輩から多くを学び、基礎を固めることができました。進路を考えた際、教員を目指していたことと、スケートを続けたい気持ちから、教職課程のある大学へ進学。教育実習も池田高校で行いました。

その後、縁があり池田高校に赴任。恩師の木幡先生の後任として、スケート部の指導者5年目を迎えています。池田高校スケート部は、トップ選手やオリンピック選手を輩出することでも注目されていますが、それだけでなく、まだ芽が出ていない選手たちを自然豊かな環境で手厚く指導していくことも伝統だと考えています。自分がそうであったように、その伝統を引き継いでいきたいと思っています。指導の日々は大変ですが、生徒の成長が何よりの励みになります。例えば、昨年卒業した小坂さんは中学時代は全国で20番前後の成績でしたが、池田高校に入り、全日本大会で優勝しました。その瞬間を見ると、微力ながら貢献できたことがうれしく感じます。



スケート部顧問として指導する山澤教諭。夏は高校のトレーニング室や自転車で体力や足腰を鍛えます。冬季シーズンは約3カ月、生徒と大会遠征を行っています。



地域と関わりが深くなった池田高校

現在の池田高校は、私の時代よりも、地域との関わりが深くなっていると感じています。高校の中で勉強するだけではなく、地域の文化や歴史、大人との関わりなど社会への接点が増えています。

生徒たちは人間味があり、良い生徒たちだなと感じています。素直に褒めたい瞬間もあれば、担任として指導が必要と思う場面ももちろんあります。何が最善だったか…と後で考えることもありますが、「その子の良さを伸ばそう」という気持ちで臨んでいます。

教師をしていて好きな時間は、掃除後、生徒たちと世間話をする時間が好きです。「疲れた～」と話しながら過ごす放課後は、一人の人間として接していると感じます。部活動では、いちかばちかの挑戦が求められる競技の楽しさもあり、指導者としての充実感を味わう大切な時間です。